

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

電子号外

2014年(平成26年)

9月28日(日)

発行所 琉球新報社

郵便番号 〒900 - 8525

那覇市天久905番地

©琉球新報社2014年

三十数人心肺停止

御嶽山噴火、負傷者多数



御嶽山の噴火で負傷した人を救助するためヘリから降下する自衛隊員。28日午後0時18分、共同通信社へ

長野、岐阜県境の御嶽山(3067㍍)の噴火で、長野県警は28日、登山者ら三十数人が山頂付近などで心肺停止になっていると発表した。警察や消防、自衛隊は朝からヘリコプターなどで救助を再開した。負傷者も多数に上るといふ。

噴火は27日午前11時52分ごろに発生し、多数の登山者らが取り残されたが、夜までに約230人が下山。40人超は山小屋などで一夜を明かしたが、岐阜県側の26人は28日に全員が下山した。重軽傷者も含まれている。

気象庁によると、噴火活動は続き、5段階の1(平常)から3(入山規制)へ引き上げた噴火警戒レベルを維持。南側斜面を3㍍以上流れた噴煙は、上空から確認した気象庁が「樹木が燃えた痕跡はなく火砕流が流れたとは認められない」との見解を示した。

噴火直後、噴煙は上空10㍍以上まで達したとみられ、気象庁は28日も長野、岐阜両県で降灰があると予報。火口から4㍍程度の範囲では大きな噴石の飛散の危険があるほか、風により居住地域近くまで影響を及ぼす恐れもあるとし、警戒を呼び掛けている。